

営業戦略農林水産委員会

### 林業における経営体の育成を どのように進めるのか 自立した経営に挑戦する 経営体への支援を進める

**問** 今後の林業経営は、自ら経営計画を立てて実行できる人材が必要である。経営体や担い手の育成をどのように進めていくのか。

**答** 自立した経営に挑戦する林業経営体に対し、施業の効率化を図る高性能林業機械の導入補助や、航空レーザー測量による森林情報の提供、経営集約化計画の着実な実行指導などにより、経営体の育成を図る。また、各種研修を通じて担い手を育成していく。

**問** 農業用水利用の効率化やコスト低減を図る上で、ICTを活用した水管理システムの導入が必要と考える。どのように導入を図っていくのか。

**答** 今年度から県内の標準的な規模の水田で効果検証を行っている。次年度は自動給水栓などを設置して導入効果を検証し、地元の情報提供しながら導入を進めていきたい。

**問** 今年の地域ブランド調査で本県の魅力度は四十七位だった。この結果をどのように考え、魅力度向上にどのように取り組んでいくのか。

**答** 残念な結果で、本県の魅力がまだ十分に伝わっていないと感じている。結果は真摯



高性能林業機械による立木伐倒の様子

に受け止めるが、それ自体を目的にせず、引き続き対象を明確にしてプロモーション活動を行うほか、県公認バーチャルYouTuber(茨ひより)の活用など新たな取り組みも展開し、魅力発信の強化を図っていく。

**問** サイクリングを生かした観光誘客につなげるため、海外からもサイクリストを呼び取り組みを進めてはどうか。

**答** サイクリングを活用した海外からの誘客については、台湾におけるプロモーションを今後予定している。関係部局とも連携し、茨城でサイクリングを楽しんでもらえるよう取り組んでいきたい。

(ほかに、常陸牛の生産対策、イバラキセンス※の運営戦略なども質問)

土木企業委員会

### 偕楽園での定期的な イベント開催が必要では 定期的に開催できるような 仕組みづくりを検討していく

**問** 偕楽園の魅力向上には、ホームページでの分かりやすいイベント情報の発信に加え、主催者に対し開催日を誘導するなど、定期的なイベント開催も必要と考えるが、所見は。

**答** 利用者が見やすくなるよう、ホームページおよびSNSを工夫し、情報発信に努める。集客やにぎわいづくりのため、イベントを定期的に開催できるように仕組みづくりも検討していく。

**問** 地域からの道路整備に関する要望は多い。以前に比べ公共土木予算が抑制されている中、整備に当たっては優先順位を決める必要があるが、その考え方は。

**答** 交通量や周辺開発の状況、港湾やインターチェンジへのアクセスなどさまざまな観点から、重要度や緊急性、効果なども考えながら総合的に判断している。国の補助制度をうまく活用して予算の確保に努め、整備を推進していく。

**問** 総合治水として、ため池などを使った「貯める対策」に取り組むことは重要と考える。さらに、水田を買収して一時的な貯水池にすることも有効と考えるが、所見は。

**答** モデル河川において、ため池活用に加え、水田利用の効果なども検討している。減災対策協議会に「貯める対策」を位置付けており、市町村と連携して取り組んでいく。

**問** 本県の水道普及率は平成二十八年で九十四・四%と、全国平均の九十七・九%に比べて低い状況にある。水道普及率の向上に向けて、どのような方策を考えているのか。

**答** 末端供給をしている市町村の財政体質の強化も重要であり、国が打ち出している広域連携も一つの方策と考える。国会の動向も踏まえ、関係部局と連携して取り組んでいく。(ほかに、国道六号の四車線化、健康づくり等に寄与するインフラ整備なども質問)



萩まつりライトアップと野点茶会(偕楽園)

文教警察委員会

### 本県が目指す教育とは 子どもたちの可能性を伸ばす 教育を進める

**問** 時代が変わる中、茨城の発展を支える教育の在り方が問われている。教育長自ら、本県教育の進むべき道を県民や現場の教職員に語り掛けていくべきと考えるが、所見は。

**答** 人間として教えるべき大事な部分是不変だが、時代によって求められる知識や技能は変わる。県総合計画と方向性を一に、本県教育の理念を現場に伝え県民に発信し、子どもたちの可能性を伸ばす教育を進めていく。

**問** 県では、就学前教育などの推進拠点となる「就学前教育・家庭教育支援センター」の設置を検討しているが、現在の進捗状況は。

**答** 本県の就学前教育・家庭教育を進める上で、中核的な組織の役割は、人材育成や情報提供など、市町村が主体的に推進できる体制の構築支援が柱になると考える。それらを踏まえて、具体的な機能や組織の在り方について検討を進めている。

**問** 国体イメージソングやダンスは、着実に子どもたちの間に浸透していると感じる。これまでの取り組みは。

**答** 運動会などのイベントで国体ダンスを取り入れるなど、普及を進めてきた。大会の成功に向け、さらなる機運の醸成に取り組んでいく。

**問** 高齢歩行者の事故防止に向けて、最新の分析データを活用した横断時の左右確認の在り方など、新たな視点による対策も必要と考えるが、どう取り組むのか。

**答** 高齢歩行者の死亡事故中七割が夜間であるほか、道路横断時、左方向から来る車両による事故が多いとの分析結果がある。反射材の着用促進はもとより、交通環境の変化に応じた安全対策に取り組んでいく。



国体・障害者スポーツ大会の一層の機運醸成を

ことば ※【イバラキセンス】…IBARAKI sense。銀座1丁目にある茨城県のアンテナショップ(旧 茨城マルシェ)。10月25日にリニューアルオープン。